

第5回アジア鑄造技術史学会 榎原大会の開催にあたって

アジア鑄造技術史学会 2011 年度大会を、奈良県立榎原考古学研究所において開催いたします。本学会は 2007 年に設立され、第 1 回大会を高岡で開催したのち、福岡・東京・出雲と回を重ね、榎原大会は第 5 回大会となります。

本学会は既存の学問体系の枠組みを超えて様々な分野の研究者・技術者が集い、鑄造技術の歴史とその背景となる社会に関する学際的研究を目的として設立されました。アジアを中心に、国境を越えた共同作業による研究もおこなわれ、継続して新たな問題が見いだされています。そうした研究成果をもとに、ひろく意見が交わされ、問題が共有されて、本学会活動はますます活発になってきています。

3 月 11 日の東日本大震災と原子力発電所事故にともなう災害は、人と技術、文化と文明について、世界中の人々に熟考を求める契機となりました。今後の社会のあり方を模索するに際して、過去の歴史から学び取ることの重要性が再確認されてきています。本学会は古代技術史の一面を対象とするものでありますが、これまでの研究成果には将来を見据える際の示唆が多く含まれていることを確信します。

榎原大会では、口頭発表 23 本、ポスターセッション 7 本、ビデオセッション 1 本、計 31 本の研究発表が予定されています。例年にもまして活発な議論が交わされ、鑄造技術史研究がさらに深化されることを祈念いたします。

2011 年 8 月 27 日
アジア鑄造技術史学会 榎原大会実行委員会
実行委員長 宮原 晋一

アジア鑄造技術史学会 研究発表概要集

5号

目次

口頭発表

柳田康雄	北部九州製青銅製把頭飾の蠟型鑄造	4
박학수 (朴鶴洙) 유혜선 (兪惠仙)	國寶 第 141 号 多紐細文鏡의 科學的 考察	8
劉治国	土器質鑄型外枠による銅鐸の復元実験	15
澤田秀実 齋藤 努 長柄毅一 持田大輔	6～7世紀における古墳出土銅鏡の理化学的研究	19
蘇栄誉	中国古代失蜡铸造——兼论青铜器技术研究方法论（摘要）	25
田賀井篤平 マティ・フォラー	オランダ国立民族博物館に収蔵されている江戸時代の合金標本	27
南健太郎	重圈文鏡の生産・拡散とその意義 —南九州における検討から—	31
羽田康一	「クィリナーレの拳闘土」——古代ブロンズの色彩効果	35
宮里 修	東北アジア地域における青銅器の幾何学紋様と施文技術について	39
渡辺智恵美 増田浩太	島根県荒神谷遺跡出土青銅器の保存修復と冶金学的情報	43
方文培	高麗時代青銅盤口瓶의 製作技術 — 濟州道 缸破頭城 抗蒙遺蹟址 出土品一例 —	47
田賀井篤平 三船温尚 清水康二 白雲翔	青銅鏡鑄造実験で製作した鏡と鑄型の化学分析	54
朴章鎬	馬形帶鉤의 製作技法과 地域性	58
増澤文武 尾崎誠 増田浩太 足立克己 澤田正明 杉本和江	X線ラジオグラフィによる金属文化財の調査 —二次元画像の読影と応用—	63
川村佳男	春秋・戦国時代の薄造り青銅器の製作技術	67
万 俐	从陈璋壶看春秋战国的冶铸技术	71
大橋 修 遠藤靖之 相原健作 原 智	熱膨張を利用した簡便接合による木目金の製作	78
沈載淵	東海 松亭洞遺蹟의 鍛冶施設에 대한 研究	82
鈴木瑞穂	岡藩錢座跡出土坩堝の分析調査結果	87
丹羽崇史	冶金関連遺物・遺構からみた飛鳥の工房	81
檜山満照	山東省滕州市出土の漢代鍛冶工房画像石 —ファイゴを用いた冶金図の解釈をめぐって—	94
柳田康雄	朝鮮半島における銅戈の鑄造技術	98
車順喆	慶州地域 青銅工房炉址 検討	102

ポスターセッション

三船温尚 長柄毅一 佐々木栄聡	鑄バリの急冷微細化金属組織の X 線透過撮影による鑄型分割位置の確定	105
長柄毅一 前原 豊 杉山秀宏 清水康二 三船温尚	群馬県前橋市元総社弥勒遺跡および天神遺跡出土銅鏡の金属組織	107
村松洋介	吉林省地域の青銅器鑄型 - 通化市小都嶺遺跡採集資料の写真観察から	112
菅頭明日香 酒井英男 白雲翔 清水康二 三船温尚	山東省臨淄齊国故城漢代鏡範の磁気物性分析	114
田中裕子 伊藤博之	北方系青銅刀子の復元実験	116
楠 恵美子	銅鐸の型式と使用痕跡	118
范陶峰 万 俐	陈璋壺的初步分析与思考	120

ビデオセッション

三船温尚 清水康二 長柄毅一 白雲翔 Sharada Srinivasan	インド・ケララ州における挽き型ゲージを使用しない回転器物の蠟型鑄造技法 —中国古代青銅鏡の鑄型作り研究への提案として—	123
---------------------------------------	----------------------------------------------------------------	-----

関連展示

北井利幸	特別陳列「奈良県内出土のガラス鑄造関係遺物」	125
------	------------------------	-----

2011 橿原大会実行委員会

共催：奈良県立橿原考古学研究所

委員長：宮原晋一（奈良県立橿原考古学研究所）

事務局長：清水康二（奈良県立橿原考古学研究所）

委員：青柳泰介（奈良県立橿原考古学研究所）、赤沼 潔（東京芸術大学）、小田木治太郎（天理大学）

北井利幸（奈良県立橿原考古学研究所）、児島大輔（奈良文化財研究所）

澤田秀実（くらしき作陽大学）、清水克朗（富山大学）、庄田慎矢（奈良文化財研究所）

杉本和江（古美術すぎもと）、丹羽崇史（奈良文化財研究所）

持田大輔（奈良県立橿原考古学研究所）、山田隆文（奈良県文化教育課）、吉田 広（愛媛大学）

采翠真澄（高田短期大学）

■アジア鑄造技術史学会（日本支部）に入会を希望される方は、以下の「1. メール」か「2. 郵送」の方法で、庶務部 澤田までお申し込みください。

お申し込みには、下記の①～⑨の入会希望情報を添えてください。なお、⑤の連絡先住所は、送付先も兼ねますので＜自宅＞か＜勤務先＞かを必ず明記ください。

①氏名（漢字とひらがな読み） ②専門 ③所属機関名 ④役職名 ⑤連絡先住所（自宅か勤務先かを明記） ⑥郵便番号
⑦電話番号 ⑧ FAX 番号 ⑨ E メールアドレス

1. メール：h-sawada@ksu.ac.jp

2. 郵送：くらしき作陽大学食文化学部 澤田秀実 〒710 - 0292 岡山県倉敷市玉島長尾 3515

TEL：086 - 436 - 0233

FAX：086 - 523 - 0814

■入会金・年会費は以下の「郵便振替口座」か「ゆうちょ銀行」へお振り込みください。

入会金 3000 円、年会費 3000 円（初年度は合計 6000 円）となっております。

●「郵便振替口座」

・口座番号 00770 - 4 - 75962 / 「口座名称」 アジア鑄造技術史学会

●「ゆうちょ銀行」（金融機関コード 9900）

・店名 ○七九店（ゼロナナキュウ店） ・当座預金 ・口座番号 0075962

・受取人名 アジアチュウソウギジュツシガッカイ

アジア鑄造技術史学会研究発表概要集 5号

2011年8月27日発行

編集者：青柳泰介 持田大輔

発行者：アジア鑄造技術史学会

〒933 - 8588 富山県高岡市二上町180 富山大学芸術文化学部内

0766 - 25 - 9162（直通電話） 0766 - 25 - 9215（共通FAX）

e-mail：mifune@tad.u-toyama.ac.jp

印刷所：橋本印刷株式会社

〒639 - 2155 奈良県葛城市竹内365-1